

平成30年度 中津高校芸術鑑賞

平成30年10月11日(木)14時から中津川文化会館大ホールにて芸術鑑賞会を開催しました。当校では、音楽鑑賞と芸術鑑賞を毎年交互に実施しており、今年度は演劇鑑賞で、劇団銅鑼による『いのちの花』でした。当日は雨天の中、中津高校から中津川文化会館まで徒歩で移動しました。

この演劇は、生命の大切さを、農業高校の生徒たちの視点で、表現する感動的な作品であり、その演劇のすばらしさに加え、ストーリー性もあり、表現力も豊かであったため、どの生徒もひきこまれる演技で充実した芸術鑑賞会となりました。



撮影：那波智彦

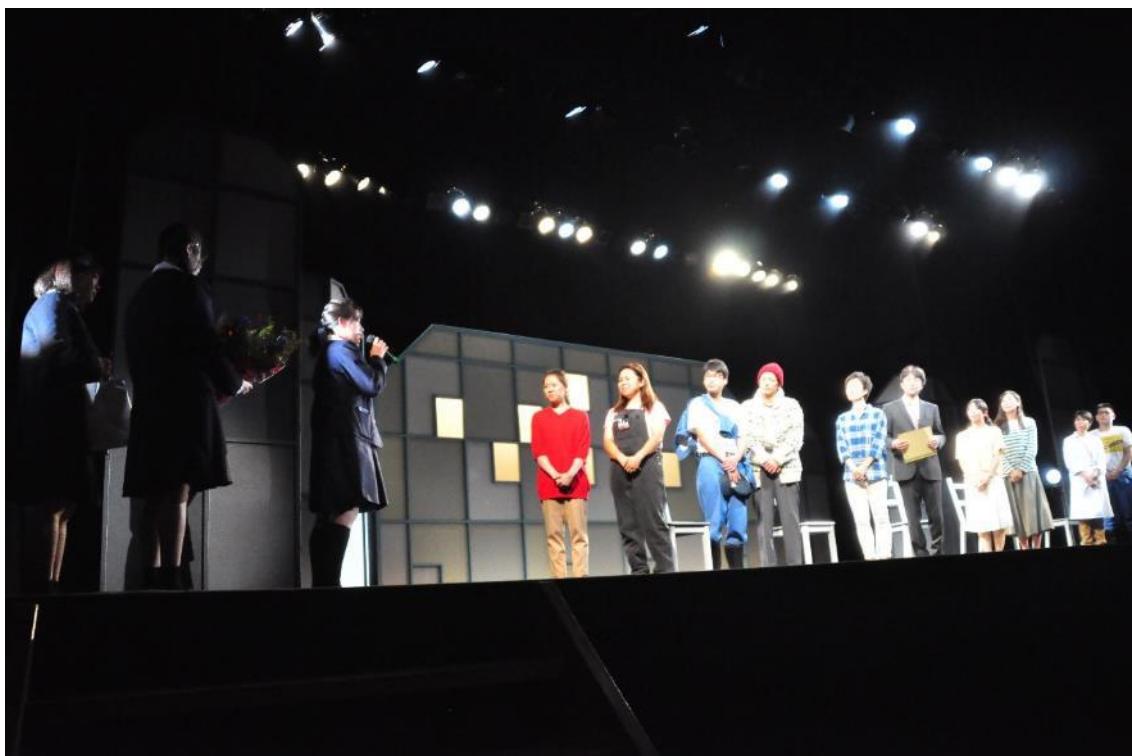


撮影：那波智彦



撮影：那波智彦

終了後、生徒会が劇団の皆さんへお礼の言葉を述べました。



●生徒の感想より

『感想文1』

“いのち”って難しいなと改めて思いました。勿論今までのいのちについて考える機会は沢山あって、私も動物が大好きなので殺処分というのを行っているとは初めて聞いた時は物凄い衝撃を受けたし、皆平等な命なのに何故人間がそういうことをしているのだろうと悲しい気持ちになりました。でも、今回「いのちの花」を観させて頂いて、結局は、私はそうやって思っただけだなということが分かりました。実際野良犬がそこら辺にうろろうしていたら困ってしまうし、お肉も毎日美味しく頂いています。そうやって殺すことは駄目っていう場面では物事を見れていませんでした。人間は毎日動物のいのちを頂いて生きているという事実から背いてはいけないなと思います。その上で、どういう気持ちでご飯を食べるのか、ペットを飼うのかということを考えるのが大事なんだと学びました。彼女たち5人の死も受け入れた上で、その子達のいのちの有り方について考え、行動し、花にいのちをつないでいくという活動は本当に素晴らしいものだと思います。皆が皆そういうことを出来るわけではないと思うけれど、大事なのは毎日の「頂きます。」などもそうで、自分にいのちをつないでくれたものに感謝することや、つないでくれた命を大切にいきることなんじゃないかなと思います。「死んだ者に対して出来ることは大切に思ってやることだけ」とても心に残りました。正解なんて誰にも分らないけれど、皆いのちを頂いているというのは事実だから私は毎日感謝を忘れずに生きたいと思ったし、もっともっといのちについて考えていきたいと思いました。

『感想文2』

同じ高校生として、何かしたいと思って実現につながられたこの5人の人たちの姿はすごいなあと思いました。農業高校なので私たちと全く違う高校生活や環境がすごく新鮮でおもしろかったです。また、私たちの普段の授業では勉強できないことが一緒に勉強できた気がしました。やっぱり学校が違うからこそ、卒業後の進路も新鮮でした。体験したり、経験したことは大きな影響になるので、私ももっといろんなことをたくさんやって将来につながりたいと思いました。もちろん、動物のいのちの大切さもよくわかりました。殺処分されてしまう犬や猫のことを深く知らなかったのもっと私も知りたいと思いました。5人の女子高校生のうちの一人が悩んでから決心したのとは共感できなくて、私はめっちゃいい！！って思いました。すごくステキなお話でした。

『感想文3』

殺処分された犬、猫たちの骨が供養もされず、ゴミとして捨てられている事実には衝撃を受けました。災害や里親の都合で育てられなくなった動物たちは保健所に預けられ、殺されたあとは何もなかったように粗末にされる。昔から「命は大切だ」と言われてきたけれど、それは私たち人間だけのことでなくて犬や猫、家畜として育てられている動物たちも同じなのだと気づきました。それと同時に命は平等にあるからこそ、他の動物たちから命を頂いて生きている私たちが命を粗末にしてはいけないと思いました。私にできることは少ないけど「いただきます」「ごちそうさま」から見直してみようと思います。私は今この言葉を忘れ、何も言わずに食事をすることが多いです。からあげ一個にも鳥一羽の命をもらっていることを忘れないで感謝していきたいです。また、私と同じ女子高校生が動物たちのためにプロジェクトを立ち上げ、かっとうしながら命と向き合う姿がとても強く、かっこよく、素敵でした。私も誰かのために一生懸命になれる人であれたらいいなと思います。劇「いのちの花」は命の大切さについてかんがえさせられるもので、見てよかったなと思います。